

令和7年度

運営に関する計画

自己評価《最終評価》

大阪市立大正西中学校

令和8年2月

大阪市立大正西中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学校教育目標「人間尊重の教育を基盤に、豊かな心と自ら学ぶ意欲を育て、「生きる力」を育む教育活動を推進する」ことを目指して、生徒とのコミュニケーションを大切にし、常に生徒一人ひとりをしっかりと見つめた「いじめ」のない学校づくり、保護者の理解・協力を培いながらの規律ある生活指導、基礎基本の定着を重視した学習指導に力点を置いて取り組んだ。その成果は、授業2分前入室や授業離脱生徒0の実現、服装・頭髪違反者数や遅刻数や器物破損数の大幅な減少等、様々な面で現れている。しかし、学習面では、授業を大切にする気持ちは高まっているが、基礎・基本の定着には大きな課題が残る。

また、家庭の状況や友人関係など要因は様々であるが、不登校の克服も本校の大きな課題である。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和7年度の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

○令和7年度の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和3年度より減少させる。

○令和7年度の校内調査において、令和3年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

○令和7年度の校内調査において、「自分にはよいところがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度(73%)より向上させる。

○令和7年度の校内調査において、「将来のこと(進路)や生き方について考えたことがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度(85%)より向上させる。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和7年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より1ポイント向上させる。

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を68%以上にする。

○令和7年度の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を52%以上にする。

○令和7年度の校内調査において、「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度(93%)より向上させる。

○食育を推進し、令和7年度の校内調査において「朝食を毎日食べている」に当てはまらない生徒の割合を令和3年度(9%)より減少させる。

【学びを支える教育環境の充実】

○学習者用端末を活用した授業を週1回実施する。

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を40%以上にする。

○ICT機器の整備と活用を推進し、授業を中心に、すべての学年や学級で生徒がICT機器を活用した活動を行う。

○令和7年度の校内調査において、「学校では、命の大切さや社会ルールについて学ぶ機会が多い」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度(94%)より向上させる。

○令和7年度の校内調査において、「家で学校の授業の復習をしている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度(55%)より向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を83.8%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において、「自分にはよいところがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(82.3%)より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「将来のこと（進路）や生き方について考えたことがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.9%)より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.2%)より向上させる。
- 定期的（年2回以上）の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を毎年高め、地域とともに歩む防災・減災計画に参画する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35.7%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.5%より向上させる。
- 食育を推進し、年度末の校内調査において「朝食を毎日食べている」に当てはまらない生徒の割合を9.4%より減少させる。
- 調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲を高めるため、昼休みの図書館開館を原則5回とし、昼休みの図書室利用者数を平均15名以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を96%以上にする。

学校園の年度目標

- ICT機器の整備と活用を推進し、授業を中心に、すべての学年や学級で生徒がICT機器を活用した活動を行う。
- 年度末の校内調査において、「学校では、命の大切さや社会ルールについて学ぶ機会が多い」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.5%より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「家で学校の授業の復習をしている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を41.1%より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

一昨年より継続して、学校教育目標を基に、生徒と向き合い、かかわりを深めながら、ICTの積極的な活用、指導方法の工夫改善に努め、基礎基本の定着を重視した学習指導に注力した。また、生活指導面では、基本的な生活習慣の定着と、道徳心・規範意識の醸成、さらに将来にわたり意欲をもって生きる力を育むことに重点を置き、教職員一丸となって取り組んできた。

授業2分前着席の取り組みを継続して行い、落ち着いた環境で実施される授業をはじめとして、様々な教育活動が円滑に進められている。また、各種行事後に実施する生徒アンケートの、行事に対する満足度や事後感想をみると、生徒の持つエネルギーが良好な方向に向かっていることが読み取れる。さらに、第2回学校評価アンケート（生徒アンケート）において、「学校の決められた服装やルールを守っている」の質問に対して肯定的な回答が98%、「清掃活動をまじめに取り組んでいる」の質問に対して肯定的な回答が98%、「まじめに授業に取り組んでいる」の質問に対して肯定的な回答が94%と、極めて高くなっていることから、生徒の規範意識が醸成され、穏やかな学校生活を送っていることが読み取れる。学校評価アンケート（保護者アンケート）の「お子様は、友達を大切にし、人への思いやりを持って行動できている」の質問に対して肯定的な回答が97.6%、「お子様は、中学生らしい正しいマナー・ルールが身についている」の質問に対して肯定的な回答が91.3%と、保護者からの評価も極めて高くなっている。

学力面では、「全国学力・学習状況調査」の結果において、全国平均とはまだ開きがあり（全国平均と比べ国語は-5.7ポイント、数学は-11.3ポイント）、学力の向上が本校の課題となっている。その課題克服のために様々な取り組みを進めてきたが、結果に現れるまでに至っていない。さらに工夫を重ねながら継続的な指導を続けていきたい。また、大阪府中学校チャレンジテスト（3年）においても同様の傾向がある（大阪府平均と比べ国語は-14.9ポイント、社会は-5.2ポイント、数学は-9.1ポイント、理科は-6.4ポイント、英語は-4.1ポイント）。

体力面では、「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果から体力合計点においては、全国と比較し男子が-1.02ポイント、大阪市との比較-0.51ポイントだった。女子に関しては全国と比較し+0.63ポイント、大阪市との比較は+0.07ポイントとともに上回った。

今後、学習指導において、生徒が主体的・対話的に取り組む課題設定や教科の横断的な学びを進めていけるよう教科会や教科主任会で図っていく。また、生活指導において、自制・自省しながら将来を見据えた自己実現ができるよう情報を共有し、個に応じた支援をしていく。不登校生に対しては昨年度より登校支援教室を設置し、利用生徒に個に応じた支援を行ってきた。その結果、本年度目標の「不登校生徒の割合を全体の18%以下にする」の項目では2学期末時点で15.85%であった。引き続き個に応じた支援を継続し、不登校生数が減少するよう取り組みを進めていく。

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「思う」と回答する生徒の割合を83.8%以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年度末の校内調査において、「自分にはよいところがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(82.3%)より向上させる。 ○年度末の校内調査において、「将来のこと(進路)や生き方について考えたことがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.9%)より向上させる。 ○年度末の校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.2%)より向上させる。 ○定期的(年2回以上)の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を毎年高め、地域とともに歩む防災・減災計画に参画する。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容1 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (学校運営)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な教育環境の整備を行い開かれた学校づくりを推進する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学校だより・ミマモルメを活用し、積極的に情報発信を行う。 	B
<p>取組内容2 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (学校運営)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波や防災の訓練を通して、安全な避難と防災の教育・指導に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回以上の避難訓練の実施。 ・年度末の校内調査において、「事件や事故、災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(90.3%)より向上させる。 	B
<p>取組内容3 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (学校運営)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を通じ、人とのつながりを感じられる、いじめを生まない学校づくりを進める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.2%)より向上させる。 	B

<p>取組内容4 【基本的な方向2 豊かな心の育成】(道徳心・社会性の育成①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や総合的な学習の時間、道徳の授業を通じて、いじめや仲間はずれを許さない、一人ひとりを大切にする人権教育を実施する。学年や学級での取り組みを充実させ、体育大会や文化祭等の学校行事の中で、その成果を発揮し、充足感を得られる生徒集団の育成を図る。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見されたいじめ事案を職員全体に共有し、解消した割合を100%にする。人権教育実践や、学校・学年での取り組みに向けて、外部人材の活用を視野に入れ、それによる教育活動を1回以上実施する。 	
<p>取組内容5 【基本的な方向2 豊かな心の育成】(道徳教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らはかけがえのない大切な存在であると実感し、他者を思いやる気持ちを育む。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・22の内容項目をもれなく満たす授業を年間35時間以上おこなう。 	
<p>取組内容6 【基本的な方向2 豊かな心の育成】(芸術鑑賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己肯定感の向上に向けた教育活動の充実を図るべく、全校生徒に対し、芸術鑑賞の機会を設ける。また、鑑賞内容は、毎年分野を変更し、3年間に渡り、新しい分野の芸術に触れることができるようにする。 ・今年度は「演劇」分野の芸術鑑賞を実地することで、その内容から登場人物の生き方や想いに触れ、自分自身の生き方についても考えを深める機会とする。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロによる演技に直に触れ、その演技が人の心に響き、感動させるものであること、また、表現活動の魅力を生徒に感じ取らせ、事後アンケートで行事の満足度・充実度を85%以上にする。 	
<p>取組内容7 【基本的な方向1 安全・安心な教育の推進】(道徳心・社会性の育成②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の定着を図り、規律ある集団の育成に努める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の交通安全指導と交通ルールを厳守し、安全なルートでの登下校と交通事故件数「0」を目指す。 ・校内調査における「学校の決められた服装やルールを守っている」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を80%以上にする。 	B
<p>取組内容8 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】(道徳心・社会性の育成②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の相談活動を中心とし、生徒個々の生活背景や実態を正しく把握し、生徒理解・課題解決に向け取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2回以上の生徒実態調査と外部講師による生活指導講話を実施する。 ・保護者・地域・関係諸機関との連携を密にするとともに、教職員間でその情報を共有し、組織的に対応できる体制を構築する。 	B
<p>取組内容9 【基本的な方向2 豊かな心の育成】(進路)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の発達段階に応じ、キャリア教育を推進し、道徳心、社会性の育成を図る。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの指針に従い、年1回のキャリア教育を実施する。 	

<p>取組内容 10 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(特別支援教育の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの知識や生徒の特性などを教員に定着させる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上障がいの知識や特性などについての特別支援教育研修会を実施する。 ・生徒の特性や発達段階に応じ、各学年会や職員会議で情報共有を行う。 ・支援教育にかかわる研修会に積極的に参加できるよう、職員会議等や skip を活用し、連絡・案内する。 	B
<p>取組内容 11 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(特別支援教育の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの特性に応じた授業や日常生活に必要な支援を行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の特性や発達に応じ、入り込み指導や抽出指導を計画、実施する。 ・個別の教育支援計画・指導計画を作成し、活用する。 ・学年会や職員会議、または職員朝礼や学年打ち合わせで情報交換をする。 ・生徒の成長に応じた支援の仕方や授業の形式を本人・保護者・特別支援教育担当者と相談し、適宜変更、実施する。 	B
<p>取組内容 12 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(特別支援教育の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子を普段から観察し、電話連絡や連絡ファイルを通して、保護者と情報を共有する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭からの連絡を受け、情報を共有する。 ・連絡ファイルや入り込みの記録用紙を活用し、学校からの情報提供と提出物の支援を行う。 ・授業内での小テストや家庭学習用の課題プリントによる学力定着をはかる。 	B
<p>取組内容 13 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(音楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽での学びを通し、感性を育み、想像力を膨らませ、豊かな心を養う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間に4つ以上の音楽のジャンルの音楽に取り組む。器楽を年2回取り組む。 	B
<p>取組内容 14 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(美術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術史の作品鑑賞を定期的に行い、多種多様な思想や表現方法があることを学ぶ。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で美術史等の冊子と制作等の表現活動を分割した授業展開を各学期の半分以上行う。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的にホームページ(平日1回以上の更新)や学校だより(月1回)、緊急下校連絡の保護者メールを配信し情報発信を行っている。ホームページのアクセス数は4月～1月13時点で昨年度の総アクセス数の96%と昨年度の同時期を上回っている。今後はさらに発展的にミマモルメを活用していく。(昨年度31151 1月まで30026) <p>取組内容 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に火災想定避難訓練を、11月に地震・津波の避難訓練を行った。 ・期末校内調査において、「事件や事故、災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の項目で肯定的に答える生徒の割合は89%(-1.3%)と、目標を下回った。 <p>取組内容 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合は87%(-0.2%)となり、目標を下回った。 	

取組内容 4

- ・発見されたいじめ事象を職員全体に共有し、100%対応ができています。また、当該生徒についても丁寧に対応している。現在経過観察中、継続的な指導中の事案があるため、100%解消には至っていない。
- ・外部人材は性教育の際に、各学年実施する予定である。

1年生2月2日(月) 2年生3月4日(水) 3年生2月27日(金)

取組内容 5

- ・3学年共、22の内容項目をもれなく満たす授業を年間35時間以上達成することができた。

取組内容 6

- ・事後アンケートの結果、「今回の芸術鑑賞の満足度はどうですか」の質問に対して、「満足した」が88%、「少し満足した」が10%と肯定的な回答が98%であった。また、感想を見ると、障がいについて考えを巡らせている生徒や、演技に感動を覚えている生徒が多く、ただのエンターテイメントとして満足しているわけではないことも読み取れた。

取組内容 7

- ・登下校中の交通事故件数は「0」であった。全校集会や学年集会等で注意喚起を呼びかけた結果、大きな事故もなく安全に学校生活を送れた。
- ・校内調査における「学校の決められた服装やルールを守っていますか」の項目について「当てはまる」と答える生徒の割合は77%であった。今回、昨年度より指標の達成基準を大幅に上げた。その結果、達成目標である80%にはわずかにとどかなかった。

取組内容 8

- ・生徒実態調査を2回行った。夏季休業前生活指導講話は、大正警察署の方に来ていただき、非行防止及び、薬物乱用防止について講話をしていただいた。また、冬季休業前生活指導講話でも大正警察署の方に来ていただき、交通安全について講話をしていただいた。
- ・教職員の共通理解を図るとともに、情報共有を密にし、学校内外での問題行動に対して迅速な対応が行えるよう、生徒の様子や変化の把握に努め、保護者や地域との協力・支援体制の構築を図った。

取組内容 9

- ・中3は進路講話、中2では職業体験を実施し、中1も適性検査を実施予定である。また、教員対象の進路研修会も実施した。

取組内容 10

- ・特別支援教育研修会は、5月15日に生活指導研修会とかねて実施した。教員間で、支援が必要な生徒の情報共有を行った。
- ・学年集会で、生徒の特性や対応の仕方などを丁寧に話した。

取組内容 11

- ・生徒の特性や発達、また進路先を見据えて、授業の形式や支援の方法について学級担任や保護者とともに計画や実施をした。
- ・個別の教育支援計画は作成後、保護者に確認をしてもらい、随時更新できた。指導計画は生徒一人ひとりの課題に応じた目標を設定し、評価と次学期の目標を学期末懇談で保護者と相談するとともに、学年で共有できた。
- ・学年会や職員会議で情報共有を行い、学校全体での把握につとめることができた。

取組内容 12

- ・日々の様子を連絡ノートや電話、家庭訪問などを通して、家庭と情報共有ができた。家庭と学校だけでなく、必要に応じて関係諸機関とも連携をとれている。
- ・進路を見据えた支援を行うために教科担当と連携して、課題プリントや放課後学習会などを通して学力定着をはかることができた。

取組内容 13

- ・4つ以上の音楽のジャンルに取り組み、器楽を年2回取り組むことができた。

取組内容 14

- ・予定通り全学年で取り組んでいる。冊子の中に主体的に取り組めるよう調べ学習用の欄があり活用できている。

次年度への改善点

取組内容 1

- ・毎月「学校だより」を発行し、積極的なホームページのアップに努めた。保護者メールは緊急時の連絡や諸連絡に有効活用できている。日々の活動、学校行事など、多くの情報発信ができるようにしていく。

取組内容 2

- ・生徒アンケートの結果は目標を下回った。今後も継続的な取り組みを学年・学校で行うことで、生徒が更なる防災意識を持てるよう計画していく。

取組内容 3

- ・生徒アンケートの結果は目標を下回った。今後も生活面での課題のある生徒に対して、関係諸機関と連携しながら適切な対応をしていく。心の天気や相談機能を活用し継続的に対応していく。

取組内容 4

- ・事案解消のため、引き続き経過観察、指導を行う。
- ・教員の人権意識や感性を高めるために、研修等に積極的に参加できるよう啓発する。

取組内容 5

- ・次年度も引き続き、継続実施していきたい。

取組内容 6

- ・今年は、演劇のテーマから、事前学習があったほうが望ましいと判断し、各学年で取り組んでもらった。来年度以降も、内容よっての判断になるが、事前学習を取り入れていきたい。

取組内容 7

- ・事件や事故に巻き込まれないために講話や集会などをおこない交通ルールを学ぶ機会を設ける。自分自身で身を守る大切さなどの注意喚起をしていく。
- ・今回達成目標である80%にはわずかに届かなかった。しかし、学校全体の規範意識としては集会や講話などを通して高めることができた。今後も、規範意識をさらに高めて目標を達成できるように講話や集会等で引き続き指導していく。

取組内容 8

- ・生徒の実態を把握し、その都度課題に適した生活指導講話を次年度も行っていく。
- ・生徒の様子や変化の把握に努め、登校支援教室等を活用しながら、保護者や地域との協力・支援体制の構築を引き続き図っていく。

取組内容 9

- ・教員向け進路研修会をおこなうことを通じて、進路指導の質的向上を目指したい。

取組内容 10

- ・4月に新転任の先生を対象に支援が必要な生徒の情報共有を行い、生徒がスムーズに学校生活を送れるようにしたい。

取組内容 11

- ・特別支援学級在籍生徒の進路については早めに目標設定をし、どのような学習支援を行うべきかを本人や保護者、学校で必要に応じて教育相談を持つようにしたい。

取組内容 12

- ・保護者に学校での様子が分かるように連絡ファイルや電話連絡での情報共有を続ける。
- ・学力定着のため、今後も放課後学習や長期休暇中の補習など必要に応じて実施していく。

取組内容 13

- ・次年度では、今年度以上に様々な歌に取り組んでいきたい。

取組内容 14

- ・全学年予定通り、ICT 機器を活用し調べ学習も定着してきた。今後は、まとめたものを全体に共有を図りさらに学びを深めれる活動にもつなげていきたい。

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標 (施策目標) を達成するための年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35.7%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査において、「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.5%より向上させる。</p> <p>○食育を推進し、年度末の校内調査において「朝食を毎日食べている」に当てはまらない生徒の割合を9.4%より減少させる。</p> <p>○調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲を高めるため、昼休みの図書館開館を原則5回とし、昼休みの図書室利用者数を平均15名以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容1 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 (学力向上)</p> <p>・教材や教具を工夫、活用して、授業を意欲的に受ける生徒を育てる。</p> <p>指標</p> <p>・年度末の校内調査において、「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で、生徒の肯定的回答の割合を97.5%以上にする。</p>	B
<p>取組内容2 【基本的な方向5 健やかな体の育成】 (健康・体力の保持促進)</p> <p>・生徒や保護者における「食」の重要性に対する意識の向上をめざし、朝食アンケート (食喫食アンケート) を実施する。その結果、「何も口にしていない」の項目に該当する生徒の割合を減少させる。</p> <p>指標</p> <p>・朝食アンケートを前期1回、後期1回のそれぞれ1週間 (5日間) 実施。1週間 (5日間) において「何も口にしていない」に該当する生徒の割合を全校生徒の6%以下に減少させる。</p>	B

<p>取組内容3 【基本的な方向5 健やかな体の育成】(健康・体力の保持促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症等に対応できるよう、消毒液をはじめとした衛生用品の備蓄を充実させる。また、心肺蘇生やエビペンの使用などの緊急対応ができるよう研修の機会を持つ。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急対応についての教員研修を年2回行う。 	
<p>取組内容4 【基本的な方向 誰一人取り残さない学力の向上】(国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章やグラフ、図表などの情報から正確に読みとる総合的な読解力を身につけ、論理的で説得力のある文章を書く力を養う。適宜、効果的にICT機器を用いる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に2回以上、文章や情報を読み取り、要約する授業を行う。 ・学期に1回、文章を書き、グループで発表する授業を行う。 ・年度内に1回、自分が書いた文章を推敲する授業を行う。 ・学期に1回以上、一人一台端末を用いた授業を行う。 	
<p>取組内容5 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(国語)</p> <p>伝統的な言語文化に親しみ、言葉の特徴やきまり・漢字などについて理解し、使う能力を養う。適宜、効果的にICT機器を用いる。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回、漢字の課題を課し、漢字小テストを行う。 ・文法の確認テストを各単元が終了次第、1回実施する。 	
<p>取組内容6 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材開発や指導方法を工夫し、知識の定着を図る。 ・多様な資料から自ら考え、意見を書く力を身に付けさせる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週2回以上、自主プリントや副教材を活用して知識を定着させる。 ・教科書や資料集等の統計資料を積極的に使用し、テスト時に20点分以上の思考・判断・表現の問題を出題する。 	
<p>取組内容7 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(数学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの状況に応じた、学力向上への取り組み。 ・補助教材を活用し、計算問題や文章問題・発展的な問題を解かせる。 ・基礎がまだ十分についていない生徒に対し、基礎学力を定着させる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に、ノート、プリント、問題集等を提出させ、生徒の理解度を確認する。 ・1週間に1回以上プリントもしくは問題集に取り組む機会をつくる。 ・定期テスト前を中心に、計画的な補助学習を実施する。 	
<p>取組内容8 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(理科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科室を整備、器具の補充をし、実験・観察の回数を全学年合計50種類以上行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科室の整備・補充を行う。 ・年間50種類以上の実験・観察を行う。 	

<p>取組内容 9 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(美術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品のアイデアを考えたり完成したりするタイミングに意見交換の時間を設け、生徒同士で意見交換を行う。また、美術史の作品を鑑賞する際対話型鑑賞を用いて進行する。 	B
<p>取組内容 10 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(保健体育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの状況を把握しながら学校園における体力向上に向けた取組を推進する 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の同一母集団において昨年度と比較し、2・3年生において体力合計点5ポイント以上向上させる。 	B
<p>取組内容 11 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(技家)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動・理解教育の充実を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の授業実現をめざす。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標技術分野において①全学年でプリントを両面印刷しており、主体的にテスト勉強で生かせるようにする。さらに、②授業ではペアワークやグループ活動、調べ学習などの課題を設定しており、その内容に応じ3～4段階で評価する。③実習を含む授業において制作物の仕上げ(完成)はオリジナルの作業や手を加える。2学期から年度末にかけてアンケートを実施して①②③の評価で肯定的な評価を50%以上得る。 ・家庭分野では、全学年で教科書に準拠した授業用プリントを自作し、その中に、内容を振り返り各自の習得内容をまとめる「OUTPUT」記入欄を授業プリント最後に設ける。全授業の60パーセントで「OUTPUT」記入欄があるプリントを製作する。また、授業プリントを提出し、その内容に応じ、3段階で評価する。 	B
<p>取組内容 12 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(英語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の強化のため、音読に積極的に取り組む姿勢を養う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C-NET を活用し学期に2度以上音声や会話の個人ごとのテストを実施する。 	B
<p>取組内容 13 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(英語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の強化のため、学んだことを家で復習し、積極的に自主学習する力を養う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に3回以上小テストを行う。 ・スタディサプリ等を利用し、朝学等で配信を行う。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートのまじめに授業に取り組んでいる」の項目の肯定的意見が第一回の校内調査では98%、第二回は94%であった。 <p>取組内容 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会から朝食を食べることの大切さを全校集会やポスター、終学活で呼びかけるなどの啓発活動を行った。その結果、朝食を口にしていない生徒は1回目が7%だったが、2回目は6%にすることができた。「1週間(5日間)において『何も口にしていない』に該当する生徒の割合を全校生徒の6%以下に減少させる」という目標を達成することができた。 	

取組内容 3

- ・1学期にエピペン講習会と普通救命講習会を実施することができた。普通救命講習会には教職員だけでなく、部活動から代表生徒数名が参加した。
- ・消毒液をはじめとした衛生用品の備蓄に関して、点検・補充をしている。また、冬季にはクラスに1台ずつ加湿器を設置し、感染症対策に努めた。

取組内容 4

- ・三つ目以外の項目について、授業内で行うことができている。自分が書いた文章を推敲する授業について実施した。

取組内容 5

- ・問題なく実施できている。

取組内容 6

- ・各学年の授業でオリジナル授業プリントをほぼ毎時間、活用している。
- ・定期テストでは思考・判断・表現を問う問題を必ず20点分以上出題している。

取組内容 7

- ・定期テスト前に各学年で習熟度別学習を行っている。
- ・定期テスト前や各授業後に宿題を出して基礎的な技能の定着を図っている。
- ・放課後に理解が不十分な生徒を対象に個別指導を行っている。

取組内容 8

- ・理科室の整備を随時行った。
- ・演示実験も含めて実験・観察を55種類以上できた。
- ・夏場の理科室は、冷風機を2台置いて使用した。教室でできる実験に関しては、教室で行った。また、単元を入れ替えて授業を実施した。

取組内容 9

- ・作品の発表でICT機器を使い記録し、意見交換に役立てている。テスト前、美術史の鑑賞中に対話型鑑賞で見方考え方を深められている。

取組内容 10

- ・3年生は7ポイント向上、2年生は14ポイント向上した。授業開始時に、体力向上を目的とした補強トレーニングを実践したことや授業での運動量を確保するために効率化を図ったことが結果に繋がったと考える。

取組内容 11

- ・技術分野において

- ① プリントの両面印刷で主体的にテスト勉強に生かすことができた割合は50%以上の生徒が肯定的な意見であった。2学期以降も継続して自主学習に励むよう声掛けをする。
- ② 教科や道徳の授業でもペアワークやグループ活動、調べ学習などの課題を設定しており、その内容に応じ3～4段階で評価した。
- ③ 実習を含む授業において制作物の仕上げ（完成）はオリジナルの作業や手を加えた。2学期からの実習でも同様の課題を与える予定である。また、年度末にかけてアンケートを実施して①②③の評価で肯定的な評価を55%以上得る。

- ・家庭分野において
- ・全学年で教科書に準拠した授業用プリントを自作し、その中に、内容を振り返り各自の習得内容をまとめる「OUTPUT」記入欄を授業プリント設定した。授業の最後の振り返りの時間を設定することができており、2学期以降も継続して行う。
- ・授業プリントを提出し、その内容に応じ、3段階で評価を行っている。授業プリントだけではなく、実習の製作の振り返りプリントの製作も行い3段階で評価を行っていく。

取組内容 12

- ・C-NETを活用し学期に1度しか会話の個人ごとのテストが実施できていない。最終反省では、達成に向けて実施する。

取組内容 13

- ・学期に3度以上の小テスト、スタディサプリ等で配信を実施している。今後も継続して実施していく。

次年度への改善点

取組内容 1

- ・ICTの活用などを行い、生徒の実態に合わせた授業づくりを考える必要がある。

取組内容 2

- ・朝食を食べることの大切さを知らせることを引き続き行っていきたい。

取組内容 3

- ・教職員だけでなく、生徒にも引き続き緊急対応の重要性を伝えていく。

取組内容 4・取組内容 5

- ・目標通り実施することができた。

令和7年度のチャレンジテストの結果を分析し、大阪府と比較して差がついた分野について重点的に取り組みを増やしていきたい。家庭学習の時間と量に課題があるので、日々の宿題の量を増やしたり、ICTを活用したりして改善させていきたい。

取組内容 6

- ・とりわけ知識量に偏り、受け身になりがちな社会の授業で、様々なコンテンツを活用して生徒の主体性をひきだすことを心掛けたい

取組内容 7

- ・1年間を通して上記の取り組みを行ったことで、一定生徒の基礎学力の定着は図られたと考える。しかし学習に課題のある生徒への対応は十分とは言えずさらにきめ細かい個に応じた対応が必要と考える。

取組内容 8

- ・消耗品の補充を継続して、劣化が進んでいる実験器具の買い替えを進めていきたい。
- ・理科室の利用について、十分換気をし冷風機を2台置き利用した。来年度は、さらに検討していく必要がある。

取組内容 9

- ・美術史の鑑賞については生徒から積極的な意見も出るようになった。今年はアイディア共有が甘かったため次年度に意識を高めて取り組みたい。

取組内容 10

- ・次年度もさらに効率化を図り、様々なことに挑戦していきたい。

取組内容 11

【技術】

- ・昨年度のアンケートの結果より①②③の取り組みにおいて肯定的な意見を50%以上得た。さらに肯定的な意見を回答する割合を増やすために、成績のつけ方を丁寧に説明した。
積極的に勉強に励む生徒を増やすために、授業でたくさんの追加課題及び調べ学習などを行った。一部ペアワークに取り組まない生徒がいたので、活動へ参加するために回数を増やした。また、考える時間を昨年度よりも長くした。思考と創意工夫が苦手な生徒を伸ばすために、1学期の最初から考える「発問」を生徒に投げかけて「考える力」を育んだ。

【家庭】

- ・全学年で教科書に準拠した授業用プリントを自作し、その中に、内容を振り返り各自の習得内容をまとめる「OUTPUT」記入欄を作成し、授業の最後の振り返りの時間を設定することができた。また、授業内容を振り返り、自らの生活と結び付けて改善点を記入することができていた。
授業プリントを提出し、その内容に応じ、3段階で評価を行った。授業プリントだけではなく、実習の製作の振り返りプリントの製作を行い3段階で評価を行った。実習を通して、自らの生活で取り入れることができることを考え、振り返る時間を多く設定することができた。

取組内容 12

- ・音声を積極的に使う取り組みは行うことができ、C-NETを活用しての音読テストは行えたが、臨機応変なコミュニケーションと取り組みなどは行うことができていない。今後は、学習した文法項目などを生徒自身で自由に使いこなせるような授業作りを行っていく。

取組内容 13

- ・朝学習でスタディサプリの配信を週に1度以上することができた。また各学年小テストも3回以上実施することもできた。そのため、知識の定着が見られ、定期テスト等の点数が上がった生徒も少なくない。また授業に前向きに取り組む生徒が増えた。来年度もさらに学力向上のために家庭学習をさせ小テストを実施する。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p><u>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標 (施策目標) を達成するための年度目標</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を96%以上にする。 <p><u>学校の年度目標</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の整備と活用を推進し、授業を中心に、すべての学年や学級で生徒がICT機器を活用した活動を行う。 ○年度末の校内調査において、「学校では、命の大切さや社会ルールについて学ぶ機会が多い」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.5%より向上させる。 ○年度末の校内調査において、「家で学校の授業の復習をしている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を41.1%より向上させる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容1 【基本的な方向6 教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 (学力向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を多くの場面で活用し、授業を意欲的に受ける生徒を育てる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が年1回以上の研究授業と年2回以上の授業見学を実施する。 ・授業はいつでも見学できることとし、ICT機器活用方法の相互研鑽を行う。 	B
<p>取組内容2 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 (学力向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の活用を促進し、読書好きな生徒を増やして、言語力の向上に繋げる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の開館を原則週に5回以上行う。 ・学級文庫を全教室に常置する。 ・昼休みの図書室利用者数を平均15名以上にする。 	B
<p>取組内容3 【基本的な方向6 教育DXの推進】 (進路)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の進路を見つけられるように情報の探し方を学習し、ICT機器を活用した進路学習・活動を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年において、職業や進学先について、ICT機器を活用した調べ学習を行い、自分の進路について考えを深める取り組みを1回行う。 	B

<p>取組内容 4 【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】(進路)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報を収集し、生徒・保護者に適切な情報を提供する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会を年 3 回行い、うち 2 回は生徒も参加させることで、生徒・保護者がともに当事者としての意識を持ち、協力して進路について考えていくよう促す。 ・進路情報を周知するとともに進路への意識を高めるため、進路通信を毎月発行する。 	B
<p>取組内容 5 【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】(社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T 機器を使用し、デジタル教科書や視聴覚コンテンツを活用して、授業を意欲的に受ける生徒を育てる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 75%以上の授業で、デジタルコンテンツの活用機会を設ける。 	
<p>取組内容 6 【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】(理科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒用タブレットを活用して、各学年、年 1 回調べ学習を行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、年に 1 回、 I C T 機器 (タブレット) を用いた調べ学習を行う。 	
<p>取組内容 7 【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】(美術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が I C T 機器を活用した授業を行い、より広い視野で感性を向上させる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期の半分程度、 I C T 機器を活用した授業を行う。 	
<p>取組内容 8 【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】(技家)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人 1 台端末の環境を生かし、最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を実施する。さらに地域の文化に触れるような学習を取り入れる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術分野において、材料の加工もしくはデジタル (P C)、他、技術の授業で制作した作品を文化祭で展示発表する。さらに、生徒が思考・工夫したことを表現する課題や P C を利用した調べ学習などの課題を実施する。 ・家庭分野では、一人 1 台端末を利用し、授業での調べ学習を行う。また、調べた内容を授業内で発表する機会を設け、生徒の思考・工夫したことを表現できる場を設定する。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が年 1 回の研究授業と年 2 回の授業見学を実施し、相互研鑽をすすめたことで I C T 機器の活用が増え、授業にむかう生徒の意欲を刺激することができた。 ・実施後の報告シートに入力が不十分な教員が複数名いた。 <p>取組内容 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館は毎日昼休みと毎週火曜日の放課後に開館し、さらに夏休み中も計 4 日開館した。学級文庫では本棚などを配置し、朝読の時間に活用しやすいように環境整備に努めた。図書室利用者数は、平均 13 人であった。 <p>取組内容 3・取組内容 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中 3 は進学先検索を実施し、中 2 は高校調べ、中 1 は職業調べを実施した。また、中 2 は進路学習も今後実施予定である。 ・進路説明会は 3 回実施し、1・3 回は生徒も参加した。進路通信も毎月発行することができた。 	

取組内容 5

- ・各学年とも、ほぼすべての授業でデジタル教科書や視聴覚コンテンツを活用することができた。

取組内容 6

- ・テーマ：第1学年動物調べ、第2学年身体調べ、第3学年宇宙の不思議
各学年の調べた結果を文化祭で展示した。

取組内容 7

- ・1学期、2学期と順調にICT機器を利用できている。

取組内容 8

- ・技術分野において、材料の加工もしくはデジタル（PC）、他、技術の授業で制作した作品を文化祭で展示発表する。さらに、生徒が思考・工夫したことを表現する課題やPCを利用した調べ学習などの課題を実施する。
- ・家庭分野では、一人1台端末を利用し、授業での調べ学習を行う。調べた内容を授業内で発表する機会を設け、生徒の思考・工夫したことを表現できる場を設定する。

次年度への改善点

取組内容 1

- ・全教員が年1回の研究授業と年2回の授業見学を実施した。実施後の報告シートにしっかりと入力するようにして行きたい。

取組内容 2

- ・学級文庫を全教室に常置できた。
- ・昼休みの図書室利用者数は平均13で目標達成できなかった。
- ・昨年度同様に図書室の利用について、読書以外の利用者が見られた。生活指導部と連携して改善し、適切な運用を今後もしていく。

取組内容 3・取組内容 4

- ・進路情報を生徒自らが検索できるよう、情報提供の方法を工夫していく。

取組内容 5

- ・今後も様々なコンテンツを活用して生徒の意欲をひきだす方法を試行したい。

取組内容 6

- ・小テスト・課題テストなどで個人端末を使うなど、個人端末の使用について検討する。

取組内容 7

- ・通常の学校生活でもICT機器の積極的な扱いが増えているため、さらに便利に扱うための知識を広げていく。

取組内容 8

- ・技術分野において、材料の加工もしくはデジタル（PC）、他、技術の授業で制作した作品を文化祭で展示発表した。また、授業ではペアワークやグループワークを行って、自他の意見を話し合う交流を作った。さらに、その意見を要約して発表した。PCを利用して調べ学習などの課題を実施した。
- ・家庭分野において、一人1台端末を利用し、授業での調べ学習を行っている。調べた内容を授業内で発表する機会を設け、生徒の思考・工夫したことを表現できる場を設定している。また、実習の進捗状況を把握するために1人1台端末を活用し、遅れている生徒がいないかの確認を行うことができた。

【技術分野】

- ・全学年で授業中にタブレットを使用する時間を増やした。1・2年生は調べ学習や課題解決を中心に取り組む課題で読解力の向上につながった。3年生ではプログラミング教材を使用した課題とパワーポイントを使って、修学旅行後のまとめ活動に取り組んだ。しかし、活動に取り組まない生徒がいたので、中学生が興味を持つ課題を考える予定である。また、課題がすぐに提出できてしまう生徒には追加課題を考える予定である。

【家庭分野】

- ・全学年で一人1台端末を利用し、授業での調べ学習を行った。調べた内容を授業内で発表する機会を設け、生徒の思考・工夫したことを表現できる場を設定した。また、実習の進捗状況を把握するために1人1台端末を活用し、遅れている生徒がいないかの確認を行い、誰一人取り残さない授業を行うことができた。次年度でも継続して一人1台端末を利用していく